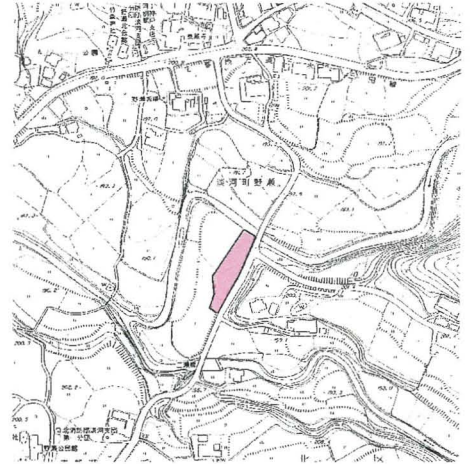


野瀬遺跡の発掘調査

— 平成15年度 農業基盤整備事業に伴う野瀬南地区の発掘調査 —

野瀬南地区の文化財の調査は、淡河地区農業基盤整備事業に伴い、平成7年度から実施しています。これまでの調査で、平安時代後期から鎌倉時代の集落跡が確認されています。今回の調査地は字名の「出合」が示すとおり、屏風川と鳴川が出合う地点の北東に位置します。北側部分は平成14年度に発掘調査を行い、平安時代後期の建物と墓が発見されました。今回調査した南側部分でも、同じ時期の建物や墓などが発見され、集落が広い範囲に広がっていることがわかりました。

今回発見されたのは、掘立柱建物3棟、水溜遺構1基、木棺墓1基、火葬に使用されたと考えられる土坑(穴)2基などです。



今年度の調査地

掘立柱建物

現在の木造家屋は、コンクリートの基礎や礎石の上に柱を立てて建物を造っていますが、今回見つかったのは、地面に掘った穴に柱を直接埋めて、立てて造った建物跡です。等間隔に1直線に並ぶ柱穴を探していくと、建物の大きさや向きがわかります。今回は3棟の建物跡が見つかりました。

建物3は、南西の角の部分に直径1.8mの水溜めと考えられる穴が掘られています。建物4と建物5は一部が重なっており、ことなる時期の建物であることが判ります。

墓

木棺墓1基と火葬土坑2基が見つかりました。木棺墓は、幅40cm、長さ150cmの木棺の痕跡が見つかりました。棺の中からは、人骨の一部が見つかりました。骨の残り具合は非常に悪く、土と同化しています。頭位は北で、ひざを少し曲げた姿勢で仰向きに埋葬されています。火葬土坑1と火葬土坑2は、2基ともに炭が詰まっていた。底には板石が敷かれています。よく似た遺構が見ついている行原遺跡では、骨の一部が見つかり、火葬に使われた遺構であると考えられます。炭化した米も見つかり、木だけではなく、穀類も燃やされたようです。

土坑(穴)

建物4の北側で見つかった穴で、土器がまとまって出土しました。割れた土器ばかり見つかったので、ごみ穴なのかもしれません。

以上のように、今回の調査で平安時代後期の集落の一部を発見することができました。来年度も別の地点で発掘調査が予定されており、次第に昔の野瀬の様子が明らかになっていくと考えられます。



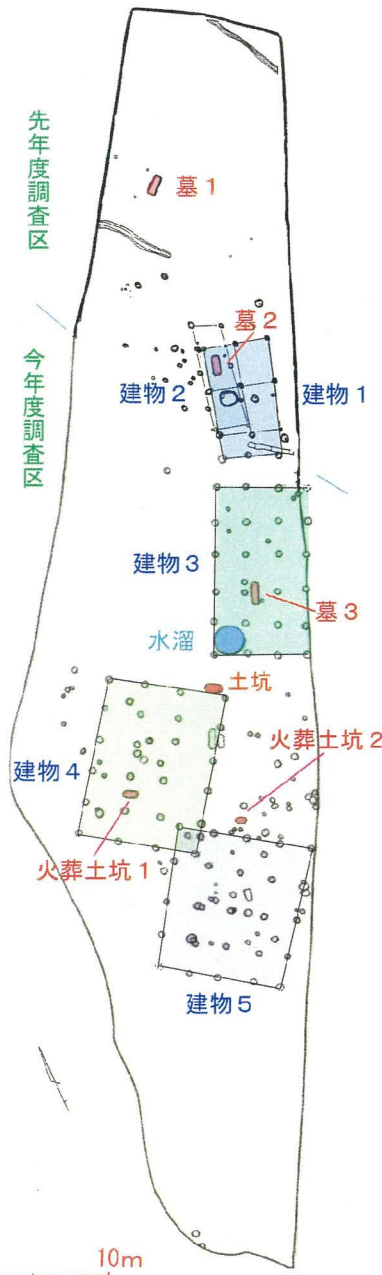
水溜状の穴



穴の中の石と土器の出土状況
穴の中は石が多量にほうり込まれ、石に混じって割れた土器出土している



火葬土坑 1



墓 (木棺墓) 3
木のお棺の跡と人骨が出土している



土坑
割れた土器が捨てられた状態で出土している



火葬土坑 2

現地での調査はもうすぐ完了しますが、出土した土器などの整理作業は引き続き行われます。

出土品は、西区の西神ニュータウン内にある神戸市埋蔵文化財センターに運び、水洗いや接合などを行います。埋蔵文化財センターでは、整理作業や復元された遺物を自由に見学できますので、ぜひ一度お訪ねください。

神戸市埋蔵文化財センター

交通機関：地下鉄西神中央駅下車 南へ徒歩5分

西神中央公園内

休館日：月曜日（臨時休館あり） 入場無料

問合わせ：TEL 078-992-0656

〒651-2273 神戸市西区糀台6丁目西神中央公園内

